

3

砺波市のあゆみ (昭和と平成の大合併)



現在、砺波市は21地区から構成されています。この21地区は、町村合併の歴史と深い関係があります。

各地区には自治振興会があります。地域住民がゴミや環境、安全や防災、教育や文化・スポーツの分野で、児童クラブや成年会、婦人会、老人クラブなどの組織を作り、様々な自治活動をしています。

◇ 砺波市 町村合併のあゆみ

1952 (昭和 27.4)	出町と林・五鹿屋・油田・庄下・中野の1町5村が合併して砺波町を新設
1952 (昭和 27.6)	東山見・青島・雄神・種田の4村が合併して庄川町を新設
1954 (昭和 29.1)	高波・東野尻・柳瀬・南般若の5村が砺波町に編入
1954 (昭和 29.3)	般若・東般若・梅檀野・梅檀山の4村が砺波町に編入
1954 (昭和 29.4)	砺波町が市制をしき、砺波市が誕生
1955 (昭和 30.1)	鷹栖村が砺波市に編入
1957 (昭和 32.9)	若林村の一部が砺波市に編入
2004 (平成 16.11)	砺波市と庄川町が合併し、新「砺波市」が誕生



◇ 砺波市の地区別人口と世帯数

令和3年8月31日現在「住民基本台帳」より

地区名	人口(人)	世帯数(戸)
出町	9,167	3,829
林	4,547	1,640
五鹿屋	2,129	700
高波	1,376	432
東野尻	1,995	680
鷹栖	2,866	962
若林	729	223
油田	4,957	2,120
庄下	2,371	897
南般若	2,731	935
柳瀬	2,136	734
太田	1,543	503
中野	1,670	526
般若	1,697	574
東般若	1,318	424
梅檀野	1,111	369
梅檀山	379	161
東山見	1,861	688
青島	2,011	769
雄神	778	260
種田	1,065	341



LET'S WORK 2

自分の住んでいる地区を赤でぬり、砺波市の中でもどのような特徴をもつ地区か、(人口、景観、産業、文化財などの視点から)紹介しよう。

